

欧州の信用不安を背景に世界的な株安連鎖が進行

HSBC投信株式会社

- ・ 5月20日(木)、アジアから欧州、そして北米・南米へと世界的な株安連鎖が進行しました。BRICs諸国では、特にロシアのRTS指数が前日比-5.6%、ブラジルのボベスパ指数が同-2.5%と下落しました。また、外為市場では、リスク回避の円高が進む中で、ロシア・ルーブルが対円で-4.4%、ブラジル・レアルが同-5.4%と大幅安となりました。新興国からの資金逃避の加速に加えて、原油・資源価格の下落が両国の株式市場及び通貨を圧迫しています。
- ・ 今回の世界的な株安連鎖の背景としては、①欧州の信用不安の高まり、②欧州を中心とする世界経済の先行き懸念、③ドイツの国債空売り禁止措置導入と同様の金融規制措置が拡大・強化される懸念、④中国、インドなど新興国で一段の金融引き締めが進む懸念、などが挙げられます。こうした中で、投資家の不安心理が高まり、株式などリスク資産、また新興国市場から投資資金が流出しています。
- ・ 当面の間、BRICsを含む新興国の株式市場は、ボラティリティの高い状態が続く可能性があります。しかしながら、今回のBRICs各国の株式市場の下落は、一部先進国の外的要因によるところが大きく、BRICs各国の良好な経済ファンダメンタルズに変わりはありません。中国、インド、ブラジルは金融引き締めに動いていますが、これは長期にわたり成長を持続するための、適切なマクロ政策運営の一環と当社では見ています。今後、欧州を中心とする先進国の経済成長の速度は従来予想より鈍化するものの、新興国経済に牽引される形での世界経済の回復期待は高まり、投資家のリスク選好度が持ち直す中で、成長ポテンシャルの高いBRICs各国へ投資資金の流入が再び活発化することが期待されます。

世界的な株安連鎖が進行

5月20日(木)、アジアから欧州、そして北米・南米へと世界的な株安連鎖が進行しました。欧州の信用不安の高まりなどを背景に、投資家のリスク回避志向が一段と高まる中で、日本では日経平均株価が一時1万円を割り込み終値は前日比-1.5%、中国の上海総合指数は-1.2%、香港H株指数は-0.7%、レッドチップ指数は-0.9%とアジア市場も軒並み下落、インドはSENSEX30指数が+0.7%と僅かに持ちこたえました。欧州株式市場も総じて下落しており、英FT100指数は前日比-1.6%、仏CAC40指数-2.3%、独DAX指数-2.0%、またロシアのRTS指数は-5.6%と大幅安となりました。この流れは米国にも引き継がれ、NYダウ工業株30種は-3.6%と、米国株は同日発表された週間失業保険申請件数が予想を上回り、米国景気に対する見方が

※末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をお読みください。

悪化したことも加わり、下げ幅が拡大しました。また、ブラジルのボベスパ指数も前日比-2.5%と大きく下げました。最近の BRICs 諸国の株式市場は、他市場と同様に、欧州の財政危機の影響を強く受けていますが、20日(木)の、ロシア、ブラジル市場については、原油・資源価格の下落もマイナス材料となりました。同日のWTIは前日比-2.7%のバレル 68.0 米ドル、代表的な国際商品指標の CRB 指数は-1.0%と下落しており、ロシアではガスプロム、ルクオイル、ノリリスクニッケル、ブラジルではヴァリ、ペトロプラスなど資源関連株が大幅安となっています。

外為市場では、ルーブル、レアルが対円で大幅安

外為市場では、リスク回避の動きから円に資金が集まりやすい状態が続いており、20日(木)は、一段と円高が進む中で、新興国通貨では、特にロシア・ルーブルが対円で-4.4%、ブラジル・レアルが同-5.4%と大幅安となりました。ルーブル、レアルの下落は、両国の株式市場と同様に、新興国からの資金逃避の加速に加えて、欧州の債務危機が世界経済回復の障害になるとの懸念から原油・資源価格が下落していることも影響しています。

今回の世界的株安連鎖の背景

今回の世界的な株安連鎖の背景としては、①欧州の信用不安の高まり、債務危機がギリシャから他の一部欧州諸国へ飛び火する懸念、②欧州の債務問題を背景とした欧州経済、引いては世界経済の先行き懸念、③ドイツの国債空売り禁止措置の導入と同様の金融規制措置が拡大・強化される懸念、またドイツの一方的な規制措置発表で欧州当局の結束が乱れているとの見方、④中国、インドなど新興国で一段の金融引き締めが進む懸念、などが挙げられます。こうした中で、投資家の不安心理が高まり、株式などリスク資産から投資資金が流出し、世界の株式市場が下落、また一部新興国の通貨が売られています。

なお、今回の世界同時株安に関しては、上記が主な要因であり、特に20日(木)に新たに大きな下落材料が加わったということではない模様です。

BRICs株式市場の見通し

金融危機再燃の連想から、投資家のリスク選好度は一時的に低下しており、当面の間、BRICsを含む新興国の株式市場は、ボラティリティの高い状態が続く可能性があります。ギリシャをはじめとする欧州諸国の信用不安の解消にはなお時間がかかるものと見込まれます。但し、EU(欧州連合)及びIMFの支援策により、当面の流動性危機は回避されており、市場の反応はやや過剰との見方もできます。今後の注目点は、この問題の本質である一部欧州諸国の財政健全化の成否、及び財政の制約の下での欧州経済の回復の速度、その世界経済への影響、と思われます。

一方、今回の BRICs 各国の株式市場の下落は、一部先進国の外的要因によるところが大きく、BRICs 各国の良好な経済ファンダメンタルズに変わりはありません。中国、インド、ブラジルは金融引き締めには動いていますが、これは長期にわたり成長を持続するための、適切なマクロ政策運営の一環と当社では見ています。今

後、欧州を中心とする先進国の経済成長の速度は従来予想よりも鈍化するものの、新興国経済に牽引される形での世界経済の回復期待は高まり、投資家のリスク選好度が持ち直す中で、成長ポテンシャルの高い BRICs 各国への投資資金の流入が再び活発化することが期待されます。

(以上)

<関連するファンドに関わる事項>

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

- 申込手数料 上限 3.675%(税込)*

○換金時に直接ご負担いただく費用

- 信託財産留保額 上限 0.5%*

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- 信託報酬 上限年 2.1%(税込)*

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。